

事後評価結果

定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況			
<p>国道375号（御藪宇BP工区）、国道432号（大山BP工区）、矢野安浦線（荻原～津江工区）、（1）津之郷4号線などの道路整備を行った結果、本計画の定量的指標である「IC等のアクセス時間短縮率」、「観光利便性の向上率」、「対象駅の乗降客数の増加率」に対して一定の効果を上げることができた。高速道路IC等へのアクセス時間短縮率が向上し、観光利便性の向上が図られたことで、高速道路等の利便性の向上や行動範囲の更なる拡大による物流基盤・観光基盤の強化が図られ、新たな経済成長に繋がっている。</p>			
定量的指標の達成状況			
指標①IC等へのアクセス時間短縮率			
最終目標値	22.4%	目標値と実績値に差が出た要因	計画的に高速道路IC等へのアクセス道路整備を進めた結果、概ね目標を達成した。一部事業において、他整備計画で事業を推進中であるため目標値と差が出たが、引き続き事業推進に努め、事業の早期効果発現を目指していく。
最終実績値	18.9%		
指標②観光利便性の向上率			
最終目標値	21.6%	目標値と実績値に差が出た要因	計画的に高速道路IC等へのアクセス道路整備を進めた結果、概ね目標を達成した。一部事業において、他整備計画で事業を推進中であるため目標値と差が出たが、引き続き事業推進に努め、事業の早期効果発現を目指していく。
最終実績値	19.8%		
指標③対象駅の乗降客数の増加率			
最終目標値	4%, 3,994人	目標値と実績値に差が出た要因	計画的に高速道路IC等へのアクセス道路整備を進めた結果、概ね目標を達成した。一部事業において、他整備計画で事業を推進中であるため目標値と差が出たが、引き続き事業推進に努め、事業の早期効果発現を目指していく。
最終実績値	3.9%, 3,880人		
特記事項（今後の方針等）			
<p>平成27年3月に尾道松江線が全線開通となり、広島県の道路網の骨格となる井桁状の高速道路ネットワークが構築された。このことと連携し、本社会資本整備計画により高速道路IC等へのアクセス道路等の計画的な整備を推進し、高速道路等の利便性の向上や行動範囲の更なる拡大による物流基盤・観光基盤の強化を図ってきたところであるが、今後も本県が直面している課題に対応するため、広島県が策定している平成28年度から平成32年度までの道路事業の総合的なマネジメント計画である「広島県道路整備計画2016」に基づき、本計画終了後も「広島県道路整備計画2016」の7つの施策の柱である「広域的な交流・連携基盤の強化」、「集客・交流機能の強化」、「災害に強い道路ネットワークの構築」、「総合的な交通安全対策の推進」、「持続可能なまちづくりに資する道路整備」、「道路機能の有効活用」、「道路施設の適正な維持管理」について、選択と集中を徹底し、着実な道路整備を推進していく。</p>			